

〈巻頭言〉

## 東アジア、西太平洋地域の環境問題

溝口次夫

成層圏オゾン層の破壊、地球の温暖化現象などと共に発展途上国の環境問題は最近の地球環境問題として全世界から注目されている。東アジア、西太平洋地域は地球上で最も人口が多いところである。しかも、ほとんどの国が発展途上にあり、経済、産業の進展と共に環境汚染問題が深刻化している。環境汚染が最初に問題とされるのは水であり、次いで空気、廃棄物などの生活環境に直接関わる媒体である。森林破壊などの自然破壊はその後に問題となっている。最近の湖沼の高栄養化現象によって季節によってはかび臭などの出現もあるが、わが国では水道水がそのまま飲めるというのが常識である。しかし、先進国を含めて世界中で蛇口から出る水道水が安心して飲めるところは極めて少ない。発展途上国が生活環境の改善問題で先ず手掛けるのは上水道システムである。医者個人個人の健康を守るのに対して、上水道の施設は地域全体の健康改善に貢献するものであり、公衆衛生上極めて重要である。発展途上国が上水道施設を設置する場合、わが国のような飲料水のレベルにまで浄水するのかがどうか経済性を考えて議論のあるところである。先進国では産業発展の過程で意図に反して深刻な環境汚染エピソード、すなわち、ロンドンスモッグ事件、ロスアンゼルススモッグ事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ゼンソク事件などの健康被害を経験している。これらの教訓を生かして、途上国では発展のプロセスで十分に注意する必要がある。それらの情報、知識がありながら貧困のために経済成長を最優先にして同じ過ちを犯しかねない。工場排水による河川、湖沼の汚濁はこのような悲劇を招くことが予想される。的確な処理が急がれる。空気汚染では外気（大気）汚染と共に特に寒冷地域では室内汚染も重要である。厨房が発生源となる汚染物質、悪質な燃料による暖房などがある。また、先進国で使われている各種の家具類も有害汚染物質の発生源となっている。喫煙による健康への影響はもちろん論をまたない。外気では化石燃料の燃焼に伴うSO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>のほかにも重金属、有害物質にも注目しなければならない。しかし発展途上国共通の問題として重要なのは、人口の大都市への集中とそれによる環境汚染問題、とくに、自動車交通の混雑と排気ガスである。途上国で使用されている自動車は先進国では使用されない悪質な排気ガスを排出する車が多い。まだ道路事情が悪いにも拘らず、途上国の大都市の交通は公共交通機関が乏しいため、バス、乗用車に頼らざるを得ない。中国を例にとれば北京、上海などの大都市ではもちろん自動車交通による大気汚染は著しいが、公共交通手段もいくつかあり、しかも平地であるため自転車も住民の大きな交通手段となっている。しかし、内陸部にあり中国では最大の人口約1,500万人を占めると言われる重慶市は公共交通手段もバス以外になく、しかも市街地全域が起伏の多い坂道であるため、ほとんどの地域で自転車が使えない。重慶市の自動車による環境汚染問題はさらに深刻である。次に農村地帯では、レイチェル・カーソン女史の名著「サイレント・スプリング」で紹介されているように、農薬、除草剤による自然破壊が発展途上国でも憂慮されている。酸性雨による森林破壊、湖沼の酸性化による水生生物への影響なども先進国の轍を踏んではならない。廃棄物による環境汚染問題は先進国では現在最も重要な課題であるが、途上国では将来予想される環境問題である。ごみの量が多いことがその国の文化水準のバロメーターとなっていた頃もあったが、

(国立公衆衛生院 地域環境衛生学部長)

これからは如何に廃棄物を減らすかが文化の規準となるであろう。公衆衛生上の観点から食物などの過剰包装があり、これが先進国のごみの量を増やしている原因の一つとなっているが、最適な包装を考える必要がある。

発展途上国の環境問題について、先進国の歩んで来た道を例にとって紹介したが、途上国では先進国の過ちをよく認識して健全な経済と産業の発展を遂げてほしいと願っている。

なお、本特集では東南アジア地域の主要国である「タイ国の環境汚染問題の現状」について兵庫県公害研究所の奥野年彦部長に原稿を依頼しているが、ご存知のとおり阪神大震災で同地域は大きな被害を受けられたので、同部長からの原稿は遅れている。原稿の到着次第掲載することにしてるので、ご了承いただきたい。